

子供が一番おしまいに幼稚園に來ました日に、  
學習院では花壇の苗を分配してやります。また前  
年の種を採集しておいた種類を分けてやる事もあ  
ります。柿の種やら椿、藤、密柑などありあばせ  
を分配するのです。そして「今日歸つたら直に蒔  
いておきなさい、おなた方が大きくなる時分に  
花が咲くから」と云ひさせますのです。一粒の  
種が毎年成長して花が咲き出した時分に、之を眺  
めて幾度か反復すれば、記憶がいつまでも新しい  
くせらるゝであらうと思つて、御座ります。かつ  
將來疲れた時には此花の下でやすめといふつもり  
なのです。

貧民幼稚園の方では、卒業式には御馳走をしま

## 附添人を離れぬ子供

す。赤飯をやりまます。それから動物園へつれて行  
く事にして居ります。辨當をこしらへて、電車を  
買ひ切つてつれて行きますのです。これは子供の  
大變な楽しみになつて居ります。入學の當初から  
そんないたづらをする動物園へ行かれないよと  
云つて母親がたしなめて居るのをきゝました。そ  
んなに印象を深くして居るのですから、其日の事  
は生涯忘れないでせうと思つて居ます。

寫眞は撮る事に致して居ります。始めは氣がつ  
かずに居りましたが此頃は毎年撮ります。貧民幼  
稚園の方では價段を特別にやすく致しまして、平  
生からの積金で買はせて居ります。寫眞と證書を  
生涯の記念にしようと思ふのであります。

福島幼稚園

須子

トミ

或る幼兒祖母に附添はれて通園すること半歳、

いくら置去らんとしてもきゝ入れませぬ。祖母も

亦置き去るにしのびぬ有様です。一體此子はなかくのきかづもので、友達なども角力などもする位の元氣者なのです。併し附添だけは離れませんが、保母も一人で來園する様にすゝめまされども、明日から一人で來ると申しては、又送られて附添はれます。かくの如く幾日もくりかへしました。處が或時祖母が便所に行きましたのを自分を置いて家に歸りしものと思ひ、保母の目をしのんで家になげかへりました。これで一人で家にかへれるといふことが證明されました。或日祖母さんが保母に向つて申しますに、此子は來四月は小學校へ行かねばなりませんのにこれでは困ります。先生何とか工夫はありますまいかと。そこでこれはよい事を申されたと思ひ、あなたが此お子さんを全く私におあづけ下さつて、私の爲すがまゝにして下さるなら、必ず明日から一人で通園する様にして上げますと申しましたら、何卒先生におまかせいたしますからといふことでしたから、保母は

直に其子を一室につれて參り、あなたは先生を毎日くばかにして居りますね。そんなに先生をだますとよい人になれませんよと怒り顔して申したら、あしたからはきつと一人で來ると申しました。それではおばあ様に今直ぐにかへつて貰ひませうと、祖母の許に連れて參り、此お子さんはもはや一人で幼稚園に居られます。又明日から一人で來られますからおかへり下さいと申しましたら、祖母さんはそれではと一禮してかへられました。これは兼て打合せて置いたのですところが彼の兒は大聲出しておばあさんとなき出しましたがそれでもかまはずに又元の一室に抱いて連れ參り、明日からはほんとうに一人で來ることを堅く約束し保母は顔をやわらげてこれから先生と汽車ごしませう、あなたは汽車の驛長さんと此子の最も近き家から通園して居る友達四五人と汽車ごつこを始めました。そして皆さん此驛長さんによくきいておのりなさいといふ風に、大にその子を尊重

して遊ばせました處が、それから大元氣となり、先生又あしたもしませうね、あした私一人で来るなど申しました。此時の保母の嬉しさ何に譬へん。かくして遂に一人で通園する様になりました。

## お話の仕方

(Shedlock: "The Art of Story = Telling" より)

紹 介 子

### 一、お話の六ヶ敷さ

私はこれからお話の六ヶ敷い理由を考へて行かうと思ひます。お話は何故六ヶ敷いのでせう、話上手にならうとするには先づこの問題を考へて見る必要があります。この問題をはつきりと解くことさへ出来ればその人は馳がて何ういふ風にお話をしたらいかといふことを自分から工夫して行くことも出来るのであります。

お話は大變六ヶ敷いものです、と斯う切り出して皆さんを先づ脅がして置ませう、けれども一

且話上手にならうと心掛けた方はこの位のことと辟易して了つてはいけません、六ヶ敷いから用意を忘れてはならないのだと御合點下さらなければいけません。

乃でお話の六ヶ敷い理由を次に並べ立て、みませう。

(一)、お話の傍系へ深入りしてはいけぬこと。

短い演劇のお話、即ち狼が出て来た、少女はそれを知らずに遊んで居るといふやうなお話をする時に、狼が出て来たといふことによつて聞いて居る兒童に或る事件の期待をさせて置いてそのま